

平成 26 年度第 24 回「中村元東方学術賞」「特別顕彰」授賞式

平成 26 年 10 月 10 日インド大使館

## 第 24 回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員会における選考経過をご報告し、併せて受賞理由を申し述べさせて頂きたいと思っております。

さてこの度の選考に際しましては、「中村元東方学術賞」審査委員会委員の先生方の他に、過去 23 回にわたりまして東方学術賞を受賞された方々にも、「中村元東方学術賞」に相応しい功績のある研究者の推薦方をお願いし、それらのご意見が出た結果を基にして、郵便による投票の結果、皆様にご案内状でご報告申し上げましたように、第 24 回中村元東方学術賞を

高橋尚夫大正大学教授

に差し上げることに決定致しました。

### 高橋尚夫教授授賞理由

高橋尚夫教授は、昭和 19(1944)年のお生まれで、昭和 43 年 3 月大正大学仏教学部仏教学科卒業、昭和 45 年 3 月大正大学大学院文学研究科修士課程修了、昭和 48 年 3 月同大学院博士課程単位取得後退学、のち同大学の講師、助教授を経て、現在は大正大学仏教学部仏教学科教授であり、また昨年までは大正大学総合仏教研究所所長でもありました。

高橋教授は、ご専門のサンスクリット語・チベット語によりインド密教の宗教思想を明らかにし、さらにこれによって日本密教の思想・術語などをより深く解明し、弘法大師空海の密教思想の特徴を従来の伝統的理解を越えて究明してこられました。これに関する代表的論文は、日本真言宗の儀軌に近い内容を持つインド密教の原典『悪趣清浄儀軌』(Sarva-durgati-pariśodhana-tantra)の、東大・京大写本をもとにした校訂出版と和訳であります。また真言宗の所依の経典である『金剛頂瑜伽中略出念誦法』や『般若理趣経』の綿密な注釈的研究などを挙げる事が出来ます。

高橋教授の最大の輝かしいご功績は『維摩経』(Vimala-kīrti-nirdeśa)のサンスクリット写本の発見とその出版と邦訳であります。大正大学では十数年前から中国政府と協定を結び、チベット自治区に所蔵されているサンスクリット写本を中心とする仏教文献の学術調査を行ってこられました。ついに平成 11 年 7 月ポタラ宮の文献調査が実現し、その際高橋教授も数人のスタッフとともに参加されました。ポタラ宮の経蔵にはじつに沢山の帙があり、その一部に対応する不完全な梵文具葉目録が作成されていました。高橋教授はそのうちで『智光明莊嚴経』(Jñānālokālamkāra-sūtra)と記されている一帙を選びました。この経典はかつて弘法大師空海がその一部を自己の詩文に引用していたことを知っておられたからです。

この帙にはそれに続いてもう一つ別の経典が含まれていました。これがまさに『維摩経』のサンسكريット写本でした。しかし目録には『維摩経』のタイトルはなく、誤って『維摩経』第12章の章名が、それも不正確な形で記されているだけでした。高橋教授はのちに振り返って、「まさにお大師さまのお導きかと不思議な因縁を感じないではおられない」といっておられます。この発見が短い時間内でなされたのは、やはり高橋教授の優れた語学力と深い学殖によるものであります。しかし高橋教授はあくまでも謙虚に「筆者が第一発見者とされたが、たまたま筆者の開いた帙の中にあったというだけの話であり、同行したスタッフ全員の成果であることは言を待たない」と言っておられ、高橋教授のお人柄を偲ばせる美談であります。

さてこの『維摩経』原典の影印版が実際に日本に届いたのは、平成13年11月のことでした。そしてそれからわずか2年余りで高橋教授をはじめ10名の研究者によって、『維摩経』の転写本 (transliteration) が出版されました。その2年後、ついに高橋教授を中心に10名の研究者によって大正大学出版会から、校訂本『梵文維摩経』——ポタラ宮所蔵写本に基づく校訂——が出版されました。なお高橋教授はこれに続いて平成23年に『梵文和訳維摩経』(春秋社)も出版しておられます。

以上のように、高橋教授のインド哲学仏教学の領域における長年にわたるご研究の成果は、まことに輝かしいものであり、中村元東方学術賞に相応しいものと判断され、今回の授賞となった次第であります。